

2023年度「医療機関ニーズ対応型開発補助事業」（札幌市補助事業）補助金交付決定事業者一覧

No.	事業名称 および 事業概要	企業・団体名
1	間欠動作が可能な低圧持続吸引器の製品開発 長時間に渡る手術患者の口腔内分泌物（痰や唾液等）の吸引手技に関し、医療機関が持つ課題点の解消やニーズに基づき口腔内分泌物を自動で間欠的に吸引する機器を開発し、手技を最適化すると共に効率化も図り医療従事者の負担を軽減する。なお当該機器は、在宅医療や療養あるいは小児慢性期病棟等での使用も目論む。	エア・ウォーター・ライフサポート株式会社
2	VR 技術を応用した医療教育ツールに用いる感覚フィードバック手法の検討 医療教育の現場において、VR（仮想現実）を用いた教育ツールの開発・導入が進められている。VR を用いることで、多様シチュエーションを再現できるが、利用者側への感覚フィードバックが不十分なことが課題である。本事業では、患者に対して医療行為を行っているときの感覚フィードバック手法の検討を行っていく。	株式会社キシブル
3	C h a t G P Tによる福祉現場職員のメンタルヘルスケアチャットボット開発 高ストレス環境下の福祉業界の職員のメンタルヘルス対策として、C h a t G P Tを用い、職員が悩みを入力すると自動で解決提案を返信するメンタルヘルスケアチャットボットを開発。メンタルヘルス不調の原因である潜在化された業界特有の職員の悩みの解決により、メンタルヘルス改善、職員の離職率低下に繋げる。	株式会社さくらコミュニティサービス
4	リハビリテーションを「定量的評価」する三次元解析システムの精度検証及び改良 リハビリテーションは「定性的評価」から、根拠（数値）に基づく「定量的評価」が求められるようになりました。患者さんにとっても数値を提示される方が評価を実感出来ます。昨年、ローコストで「定量的評価」を実現するシステムの開発を行いました。学会発表、現場での使用を見据え、精度検証及び改良を行います。	株式会社サンクレエ
5	C T ・ M R I 検査時の腕支持器具の開発 「C TおよびM R Iにおいて仰臥位で腕を拳上して撮影する際に、現状の器具では安定感が得られず腕が動くため適した器具を開発して欲しい」というニーズが、北海道庁が主催した医療現場ニーズ発表会によって明らかになった。当社では‘簡易な構造’で‘多様な受診者に対応可能’な両腕拳上補助具の開発に取り組んでいる。	北海道ポラコン株式会社

※五十音順

◆応募件数 5 件

◆採択件数 5 件

◆補助金総額 5,000 千円